

西洋古代哲学史 第1回 (2016.04.14.)

1 「今まで、何語を学びましたか」に対する回答は、以下の通り。

英語 (7名), ドイツ語 (6名), サンスクリット (4名), 中国語 (2名), ロシア語 (2名), フランス語 (2名), ラテン語 (2名)

5 全体で 11 名からの回答で、一人で複数回答しているはずですが、はじめから、日本語と英語を省いて回答している人がいるので、英語と日本語は、全員が書いていけば、11 名になるはずですが。

この授業は、西洋古典語 (ギリシア語・ラテン語) の知識を前提としないで行ないますので、外国語については、言及する際に、原則として、原典とその日本語訳を併記して示しますから、原典の部分を読めなくても心配はいりません。

10 2 質問等

Q.1 この授業で扱う「古代」はいつからいつまでですか？

A.1 西洋古代哲学史としては、紀元前 7 世紀とされるタレスから、アカデメイアが閉鎖される 529 年あたり (ただし、閉鎖されても、研究はつづけられますから、もう少し後まで) までの、1,200~1,500 年間を対象としますが、この授業では、いわゆる「ソクラテス以前の哲学者達」
15 まで (つまり、紀元前 7~5 世紀) を扱う予定です。

Q.2 …… (私の所属する分野は) 文献学の占める割合が大きく、バランスの悪さを感じています。文献はもちろん大切ですが、私は他の分野にも視野を広げることが必要だと思います。赤井先生は、今でも数学や物理を学んでいますか？

A.2 今は、物理は、ほとんど勉強していませんし、数学は、研究の必要上、数学史を調べることはありますが、数学そのものは勉強していません。しかし、他の大学で「論理学」を担当しているので、論理計算の復習は毎年やっています。質問の前半は、根本的で重要な問題にかかわる、よい質問です。哲学の場合も、哲学と哲学史の関係として、大切なことですが、文献学をきっちりやった上で、自分の頭で自由に考えるのでなければ、「学問」としては相手にされません。かつての言い方では、中国哲学史 (今は、中国思想文化学)、インド哲学史の分野では、まず、徹底した、文献学が必要だということは、理解されていると思うのですが、哲学 (西洋哲学) の分野でも、哲学と西洋哲学史の関係がわかっておらず、勘違いしている人がいるので、困ります。「西洋哲学」という名称に、そもそも、誤解の原因があるとも言えるので、もし、いうならば、「哲学・西洋哲学史」とするべきなのですが、これは、なかなか根の深い問題なので、また、機会をみて取り上げたいと思います。

30 Q.3 1 ページ 15~20 行で、ニーチェによる 19 世紀の哲学批判が行われていますが、ニーチェはギリシアの者にも 19 世紀のものにも同じ「哲学 (philosophieren?)」(ママ, Philosophie か philosophieren) という語を使っていたのでしょうか？ そうだとすれば、ニーチェにとって「哲学」と (ママ, の?) 定義、最低条件のようなものは何だったのでしょうか？

A.3 ギリシアについても、(ニーチェにとっての) 最近代 (19 世紀) についても、哲学は、同じく、Philosophie, 哲学者も、同じく、Philosoph(en) と言っています。自分で、*Jenseits von Gut und Böse*, 204. を繙いてみて下さい。ニーチェにとって「哲学」の定義、最低条件は何か、ということ、専門じゃないのでわかりませんが (自分で調べてみて下さい¹)、この文脈では、少なくとも

¹ 「自分で調べてみて下さい」と言われても、先生が「専門じゃないからわからない」というなら、自分たち学生は、何のために、授業に出てるねん？ 意味ないやんか！ 授業料返せ！ 学生に質問されても、「専門じゃないからわからない」と答えるような教員を採用しているような大学の責任者、出て来い！ ということになるかもしれませんが、今の自分の知識で、何をどうやって調べればいいのか、その手段と方法を考えてみることは、今後、勉強を続けていく上で、むだにはならないでしょう。

も、ギリシアについても、最近代についても、自分で哲学をやっていると称しているか、周囲の人から哲学をやっていると見なされているか、いずれかの人たちのやっていることが哲学だということでしょう。「試みに、思え！ヘラクレイトス、プラトン、エンペドクレスなどの傾向が、いかに全く近代のものと異なっていたかを」と言われているので、最近代の哲学が認識論のみに後退してしまっ

5 5 退してしまったとすれば、ヘラクレイトス、プラトン、エンペドクレスなどの哲学は、認識論のみではなくて、それ以外のことがらも対象としていた、ということになるでしょう。「試みに、思え！」と言われても、これから勉強しようとしているのだから、わからないよ！と言われてれば、それまでですが、ニーチェはそういう人を読者として想定していないので、仕方ありません。では、ニーチェが想定している読者ならば、どういうことを思い浮かべるかですが、認識論のみで

10 10 はなくて、それ以外のことがらという、と、どういうものがあるのか、ということで、ヘラクレイトス、プラトン、エンペドクレスなどの名前から、少なくとも、世界・宇宙・自然（以上を、万有という）は、何なのか、何からできていて、どういう仕組みになっているのか（宇宙論）という問題、そして、価値判断にかかわる問題（よい、わるい、など）があること思い浮かべるはずで

この箇所の原典をみてるのがよいでしょう（別途、資料を参照）。

15 3 受講する理由については、以下の通りです。一人で複数回答あり。

教職課程に必要な単位なので（4名）

単位が必要だから（1名）

専門の単位が必要だから（3名）

自分の専門とは別に、哲学に関心があるから（1名）

20 シラバスに「ソクラテス以前の哲学者について」と書かれているのを見て興味を持（ママ）ったから（1名）

赤井先生がシャボン玉を吹いているという噂を聞き、ぜひとも赤井先生の授業を受けたいと思ったため（1名）

25 シャボン玉と授業を受けたいということの関係をもう少し、言葉を補って説明していただきたいところ

Philosophen rauchen. / Der Philosoph raucht.（哲学者はたばこを吸う）というのは、どこかで聞いたことがあります、

Der Philosoph Seifenblasen macht.（哲学者はシャボン玉を吹く）というのは、なんだか、ことわざみたいですね。

西洋古代哲学史 第2回 (2016.04.21.)

Q.0 たまにネットが使えない人がいると思うので、資料は配布した方が良いでしょう。

Q.0' PDFを紙にする方がよく、一番は締切日を作る方が良いでしょう。

A.0,0' 印刷して配布します。大学は今年から(1年生ですが)、全員がパソコンをもって(ない人は大学のノートパソコンを貸し出す)、全員がネットにつながっている、ということになって
5 います。いいことだか、わるいことだか、わかりません。

Q.0'' ホームページが文字化けしているので配ってもらった方が助かります。

A.0'' 文字化けしない文字コードに設定して読んでください。

Q.0''' 先週 URL を入力してもページが出てこなかったもので、できれば必要なものは配ってほ
10 しいです。

A.0''' メモした URL に間違いがないか、違っているとすれば、どこが違うのか、可能性を考えて、試してみることも、文献や資料を探すための練習になるので、すぐにあきらめないで、あれこれやってみることが大切です。

Q.0'''' 私は、自分だけでも理解できる内容であれば、PDFを各自で読むという形で良いと思いますが、今日の質問は一見ただけでは分からなかったもので、内容によってはコピーして配って解説してほしいです。

A.0'''' 携帯端末の小さい画面で読むのではなくて、パソコンでファイルをダウンロードして、自分でプリントアウトし、それを読みながら、書き込みをし、読んでもらうことを想定しています。

Q.1 大人になってから、しかも室内でシャボン玉を吹いている人はめったにいないと思います。
20 す。(悪い意味ではありません。)そのような先生が、どのようなことを考えていて、どのような授業を展開するのかということに対し、私は強い興味を抱きました。

Q.1' なぜ赤井先生はシャボン玉を吹くのですか。

Q.1'' 授業とは関係ないですが、何故、先生はシャボン玉を吹くのですか。

A.1 最初は、人から携帯できるシャボン玉セットをもらったからですが、その後、自分でもっと
25 と便利なものを探して使っていました。が、最近では、あまりやっていません。哲学研究室でやると、あとがつくので、「やめてください」と学生に怒られますし、哲学研究室の窓を開けて、扇風機で駐車場の方向へ飛ばすと、風向きにもよりますが、うまくいったときは、われずに、駐車場の上空まで到達すると、なんだか、うれしくなります。

Q.2 哲学科各専攻単位表に、心理学が含まれていました。現在では教育学部や総合科学部に
30 分類されています。当時から、臨床心理や行動認知心理が研究されていたのでしょうか。それとも、心理学の歴史などを扱っていたのでしょうか。

A.2 よい質問です。質問に対する答としては、文学部で、臨床心理や行動認知心理を研究して
35 います(ただし、広島大学ではありません)。例えば、名古屋大学の文学部の心理学研究室は、文学部の建物とは別に、立派な動物実験舎をもっています(そして、教育学部には、別に、教育心理があります)。参考に配布したのは、京都大学文学部の哲学科各専攻単位表(当時の名称)です(京大では、教育学部の教育心理でも、総合人間学部でも心理学が研究されています)。今では(ここ20年くらいの間に名称が変わって)、哲学科という名称はなくなって、行動科学などか
40 う名称に変わっていきりますが、旧帝大(北大、東北大、東大、名大、京大、九大)の文学部(旧)哲学科には、心理学、社会学、美学(美術史)が含まれています(阪大は、美学(美術史)は文学部、心理学、社会学は人間科学部)。これら以外の地方の国立大学でも、心理学、社会学、美学(美術史)がある場合は、文学部(人文学部、法文学部など名称は異なる場合もある)の哲学系に含まれています。

それに対して、広島大学の文学部の旧哲学科(現在の、哲学・思想文化学コース)には、設立以来、はじめから、心理学、社会学、美学(美術史)がありません。これらが、はじめからない、

ということが、広島大学の文学部の特徴です。そして、これは、国立大学の文学部としては、少数派というか、例外というか、普通のことではありませんから、このことを知っておいてほしいと思います。

Q.3 先生は事物の原理について考えられたことはありますか？

5 A.3 タレスたちのような意味では、考えたことはありません。たぶん。

Q.4 古代以前（ママ）の哲学者については古代以降に書かれた分（ママ、文）献で、考え方を学ぶと思うのですが、やはり本人が書いていないので本人の考え方のありのままがでているとは言えないのではと思ってしまう。

10 A.4 確かに、そうです。ソクラテス以前の哲学者たちの中で、何か、著作した人の場合も、その著作そのものは伝わっておらず、それを読んだと思われる、例えば、アリストテレスが、何か、報告しているものを手がかりにするしかありませんから、その時点で、すでに、アリストテレスの解釈が入っている可能性があります。そこで、重要なのは、直接引用か、間接引用か、ということ。原著者の言葉を、そのまま引用する、直接引用であれば、かなり、信憑性があると言えます。そういうものを収集して整理したのが、ディールスとクランツの『ソクラテス以前哲学者断片集』(Diels, W. und W. Kranz, 1951-52⁶, *Die Fragmente der Vorsokratiker*, Berlin.) です。日本語で読めるものとしては、以下のものがあります。

・廣川洋一、1997、『ソクラテス以前の哲学者』、講談社学術文庫。

・内山勝利編、1996～、『ソクラテス以前哲学者断片集』、全5冊、別冊1、岩波書店。（これは、ディールスとクランツの『ソクラテス以前哲学者断片集』の全訳）

20 ・カーク、G. S. 他／内山勝利他訳、2006、『ソクラテス以前の哲学者たち』、京都大学学術出版会。

Q.5 ラテン語、ギリシア語は日本人にとってはやはり難しい言語なのではないでしょうか？ 先生はギリシア語を学ぶのに10以上かかったと話しておりましたが...

25 A.5 私が伝えたかったこととは、違うように、受け取られてしまったようなので、訂正しておきます。ギリシア語、ラテン語はむづかしいと言っても、語形変化が多いだけでかなり規則性がありますから、サンスクリットにくらべれば簡単です（逆に、サンスクリットは規則を知れば簡単かもしれません）。それから「先生はギリシア語を学ぶのに10以上かかった」と言われていますが、私は、学部2年で、ギリシア語、ラテン語の文法の授業に出て（実は、それ以前に、ひとりで勝手に勉強していましたが）、学部の3、4年で、アリストテレスの『カテゴリーアイ』（ギリシア語）を読み、これについて、*De doctrina Aristotelis circa Substantiam in Categoriis* という、タイプ用紙に、ダブルスペースで45ページのラテン語の卒論を書きました（日本語で書いてラテン語に訳したのではなくて、最初からラテン語で発想してラテン語で書きました）。しかし、これは、卒論のために、授業とは別に、ギリシア語で、アリストテレスの『カテゴリーアイ』を読んだので、これとは別に、プラトンの『ソクラテスの弁明』『クリトン』『パイドン』、クセノポンの『ソクラテスの弁明』、アリストテレスの『分析論後書』『形而上学』『ニコマコス倫理学』、プルタルコス
35 の『英雄列伝』の「グラックス兄弟」など、他に、ラテン語でもあれこれ読んでいましたから、ギリシア語、ラテン語の文献を読んで哲学の卒論を書くくらいなら、2～3年もあればなんとかなります（これについては、『人文学へのいざいない』の「学部生の頃」を読んで下さい）。

40 私が伝えたかったことは、文法の授業を半年や1年受けただけでは、テキストを読む訓練を受けていないから、そのままでは、テキストは読めないよ！ということ。せつかく、学んだ、文法の知識をさびつかせないために（それに初級文法しか学んでいないので、まだまだ、学ぶべき、ちょっと難しい文法事項はあるので）、文法終了後、ただちに、自分が読みたい原典テキストを、できれば、自分よりできる人に、直してもらいながら、辞書を引き引き、詳しい文法書を繙きながら、読む訓練をなささい！ということ。これは、その人の能力にもよるし、学ぶ環境にもよるけれども、何年やってもまだまだ学ぶことがあるよ！ということなのです。この学ぶ作業を私は、自分が教える立場になるまでに、12～15年はやっている、という意味です。
45

西洋古代哲学史 第3回 (2016.04.28.)

Q.0 点字ブロックのユニットを結成するのは良い案だと思います。

Q.0' 『点字ブロックのつぶやき』非常によいアイデアだと思います。人への伝え方や情報発信の方法を工夫することは人間が互いに共生していくためにも大切なことです。

5 Q.0'' 点字ブロックに自転車をとめないようにするために、芸能界を利用するという考えはとてもおもしろいと思いました。しかし、かなり時間がかかってしまう所が難点だと思います。

私は人が見ていると思えば、そういうことはしなくなると思うので、そういうアピールができれば良いと思います。なにかで読んだけど、セルフサービスのコーヒーを注ぐ機械をつくったら、タダでコーヒーを飲む人が続出したので、機械に目のシールをいっぱい貼ったら、そういう
10 人がいなくなったそうです。

こういうことは短期間にしか役に立たないと思うけど、止めないというくせがつけば良いと思うので、少しは効果がでるかなと思います。

A.0 時間がかかっても、社会全体の雰囲気、点字ブロック上に駐輪しない方向にもっていくやり方と、予算を投入して(人件費)、嚴重に監視し、停学や退学などの厳しい罰則を科して取り締まる、即効性のあるやり方と両方考えられますが、広島大学は、そのどちらもやらない(やっていない)ようです。こういうことを赤井が言ってもだめなようです。広島県では、進路のことで、「どうせ、先生は言ってもきいてくれない」と言って、自殺した中学生がいたことを、みなさんは、まだ覚えていますか。

Q.1 ずいぶんと哲学者たちが活動的・多分野において思想を表現しているな、と思うと同時に現代の芸術家などはどうなのかとも思う(現代の芸術家について全く詳しいことは知らないが)。

A.1 古代ギリシア哲学の特徴の一番目に、「学としての統一性」「人間と自然と世界に関する一切の問いを含む、一つの総体」である、ということ挙げましたが、そのことと関係があると思います。ニーチェが批判しているように、「哲学」が(認識論のような)何らかの狭い分野に限定されていないので、古代ギリシアで、「哲学(ピロソ피아)」と言えば、ほとんど、単に、「学問」というくらいの広い意味ももっていた、ということです。ですから、現在の私たちからみると、それは自然科学(天文学や数学)だろうと思うことも、それは芸術だろう(音楽など)ということも、哲学者がかかわる領域だったのでしょう。近現代でも、近世以降の狭い意味での哲学に限定しなければ、ある分野の学問と、芸術や創作活動の両方で、どっちがどっちと甲乙付けがたい活動をしている人はいます(もちろん、どちらかが、職業になってしまっているのが大半ですが)。
30 まず、医学関係では、森鷗外の医学と文学、手塚治ももとは医学で、有名なのは漫画、上杉春雄は、医者でピアニスト(これはどちらも現役)、アルトゥーロ・ベネディッティ・ミケランジェリも医者でピアニスト(これは、ピアニストとして偉すぎる)、指揮者のジュゼッペ・シノーポリも精神科医だし、医学以外では、指揮者のカール・ベームは法学、同じく指揮者のハンス・クナッパーツブッシュとリッカルド・ムーティは哲学、それに、作曲家の三好晃はフランス文学、音楽の例ばかりになってしまいましたが、二つ以上の分野でプロとしてやっていける例は、現在でも、
35 まだあるでしょう。

Q.2 なぜ「知を愛す」ということから「哲学」という言葉が生まれたのでしょうか。先生はどのように考えられますか。

A.2 philo(愛すること)sophia(知恵を)を日本語に直訳すれば、どこかの県の名前みたいですが、「愛知」でよかったのに、と思いますが、幕末から明治初期に、何人かが、日本語訳を試みて、その後、なぜか定着したのが、「哲学」という意味不明の言葉なのです(やれやれ)。

中江兆民は、philosophieを「理学」と訳し(中江篤介『理学鉤玄』明治19)、西周は、philosophyをはじめは「希賢学」とか「希哲学」と訳していたようですが、なぜか「希」がとれて、「哲学」となり(『哲学字彙』明治14)、現在に至っています。兆民の「理学」は、philosophieの訳語として
45 は使われなくなり、理学部や理科のように、scienceの訳語として使われるようになります(例え

ば、「物理」というのは、「ものごとわり」ということでしょうか。西周が「希賢学」とか「希哲学」とか訳したのは、「希賢」とか「希哲」という表現を、「太極図説」から採ったらしいと言われています。詳しいことを知りたい人は、以下の論文と研究書を参照のこと（中江兆民と西周の著作も読んでね、結構、明治期の日本語の読解力が要ると思うけど）。

- 5 ・宮永孝, 2010, 「西洋哲学伝来小史」, 法政大学社会学部学会『社会志林』57(1-2), pp. 1-110.
- ・麻生義輝, 2008(初版, 1942), 『近世日本哲学史』, 書肆心水.

Q.3 「このような哲学」の創始者……の「このような哲学」とは、を考える必要があると言いましたが、先生はどのように考えられていますか。

A.3 アリストテレスの『形而上学』の文脈（前後関係）からみて、「このような哲学」の「このよう」は、万有（宇宙、世界、自然）が何からできているかを考える、哲学（後世の言い方では、自然哲学）、という意味に解するのが自然だろう、というのが一つの解釈です。そうすると、タレースは、端的に、「哲学の創始者」ではなくて、「自然哲学の創始者」とアリストテレスは言っていることになります。しかし、その当時（タレースの当時）、「自然哲学」しか営まれておらず、それ以前にも「哲学」を営む者がなかったとすれば（つまり、哲学の分野の中で、自然哲学が最初に起こったのだとすれば）、タレースが最初の哲学者である、ということになります。しかし、問題は、哲学の分野の中で、最初に起こったのは、自然哲学だけだったのか、ということにあります。

Q.4 モノや概念の存在の意味が、それ自身でなく、外部に求められるとすると、その外部のモノの存在の目的や意味を問うことになって、永久に逆上（ママ、遡）っていく、といったことになるのでしょうか。それは古代ではどこに辿りつくのでしょうか。（もっと後なら、神だと思えますが）

A.4 最初の「モノや概念の存在の意味が、それ自身でなく、外部に求められるとすると」の言いたいことがわかりませんので、もう少し、説明を加えて、質問し直してください。

もし、「モノや概念の存在の意味」と言われているのが、「モノや概念の存在の根拠」、つまり、
25 「何によって、モノや概念が存在するのか」ということであれば、1) 根拠を求めて、無限に遡る、
2) どこかの時点（地点）で、それ自体によって存在し、自分以外に根拠をもたないものに行き着く、ということになるでしょうが、ユダヤ・キリスト教的創造論の立場（中世・近世）では、おっしゃるように、創造神に行き着くでしょうが、古代ギリシアの場合は、もちろん、人によって程度の差はあるでしょうが、概して、最初から在るもの（素材、材料的なもの）が在って、それ以上
30 は問題にならない、という印象をもちます。

Q.5 哲学の歴史は、ギリシア哲学の流れを汲んだり、批判したりしていますよね。いつの時代のがつがくしゃも、何かしらギリシア哲学に影響を受けてると思っているのですが、哲学は結局ギリシア哲学の積み重ねなんですか。時代が転換を迎えても、ギリシア哲学は生き残りつづけてますよね。

A.5 おっしゃるように、何らかの意味で、ギリシア哲学につながっていなければ、哲学ではない、と言っている先生がおられますが、その通りだと思います。明治期以来の機械的分類による名称で、西洋哲学史、中国哲学史、印度哲学史、と称していたものを、ここ数十年のうちに、西洋哲学史はそのままですが、中国思想史／中国思想文化学、インド思想史／インドロジー（インド学）と、大学の組織名や書名などで変化が起きているのは、ギリシア哲学との関係の有無によるのかもしれませんが。

Q.6 ソフィストと呼ばれたら有料で教えていたということですが、それはつまり職業ということですよね？ となると、無料で教えるを説いていたソクラテスは どうやって稼いでいたのでしょうか？

A.6 去年も類似の質問があったので、そのときは、ほぼ、次のようにお答えしました。

45 現在の感覚で、職業や仕事を生計を立てるための手段と考えると、多くの哲学者は無職です。つ

まり、生きるために毎日、自分が働かなくても生活できる身分だったということです。そういう状態を「スコレー（暇、σχολή, schole）と言いますが、schola, school, école の語源ですが、今では中味が全く違ったものになってしまっています。大体、本人に生活の心配がなく、暇でないと、「世界は何からできているか？」とか「すべては、ケノン（空虚）とアトモン（原子）からなる」とか、直接、役に立ちそうもないことをあれこれ考えたりできないでしょう。以前、廣川洋一先生の『プラトンの学園アカデメイア』（岩波書店、1980年；講談社学術文庫、1999年）の特に、V章「経済」を紹介しましたが、それによると、プラトン自身は、自分の生活のための労働はしていません。親から受け継いだ財産があつて、それは、土地や建物、それに奴隷たちです。彼らは、果樹栽培に従事していたようで、特に、オリーブの栽培によって、生活していたようです（プラトン自身は働いていません）。それに、プラトンの作った学園「アカデメイア」もプラトンの時代は授業料は一切徴収しなかったようです。これは、ソクラテスが、他のソフィストと違って、一切、授業料を受け取らなかった伝統を受け継いでいるようです。そのソクラテス自身は、田中美知太郎先生の『ソクラテス』（岩波新書、1957年）によると、母が産婆をしていたのは本当のようですが、父が石工だったというのは、疑わしく、父の代には相当の資産があつたらしいのですが、ソクラテス自身は生活のために働くことはなく、父から受け継いだ資産を食いつぶして、だんだん、貧乏になっていったようです。しかし、裕福な友人らの援助もあつて、生活には困らなかったようです。どうも、職業についての考え方が、現在の我々とは全然違うようで、田中先生の次の言葉は、示唆的です。

今日の生活では、それ（生計）は何か一大事のように考えられていて、普通の生活水準を維持するのにも、われわれは淡々として働かなくてはならない。しかしむかしのギリシア人は、われわれのその生活態度を、むしろ不思議に思うかもしれない。そのような贅沢生活を、どうにか維持するために、毎日忙しく働くよりは、むしろ生活程度を低くしても、より多くの閑暇（スコレー）をもちたいと、かれらは考えたであろう。[田中美知太郎『ソクラテス』（岩波新書、1957年、p. 29.)]

Q.7 古代以前（ママ）の哲学者は、古代以降に書かれた文献でしか分からず、ありのままの本人の考えではないのでは、と以前質問したのですが、ソクラテスの講義を聞いた（ママ、聞いた）人のノートがそのまま残っているのは驚きでした。それならば本人の言っていることとほぼ同一に考えることができると思いました。

A.7 ちょっと、待って下さい。そう考えてもらって困ります。赤井の講義を聴いている学生諸君でも、赤井が伝えたかったことが理解されておらず、伝わっていないので、仮に、講義ノートが残っていても、それを信用することはできません。まず、前回にも、「古代以前（ママ）」というのは、「古代以前」という表現は間違っているけれども、書かれているママ引用する、という意味です。「古代」は、1000年以上時間的幅がある上に、「古代以前」と言えば、そもそも、「古代」がはじまる以前、という意味ですから、意味不明です。もし、言うならば、「ソクラテス以前」でしょう。Presocratiques（仏）、Vorsokratiker（独）、Presocratics（英）という用語が使われます。「講義ノート」は、アリストテレスがリュケイオンで行なったものについて言われています。プラトンがアカデメイアで行なった講義のノートについては、アリストクセノスという人の著作の一部がそうであるとか、ちがうとか議論がありますが、研究者の間ではあまり認められていません。ソクラテスと接触のあった（教えを受けた）、例えば、プラトンが、自分の著作として書いた対話篇はいくつかありますが、「ソクラテスの講義を聞いた（ママ、聞いた）人のノート」が残っている、ということは聞いたことがありません（これから発見されれば別ですが）。

このように、仮にノートが残っていても、講義の内容を正確に伝えているとは限りませんので、そういうものは、信用できません。ですから、例えば、これは19世紀はじめのことですが、ヘーゲルが行なった講義の内容について、複数の学生のノートを照合して、本当は、どういうことをしゃべっていたのかを明らかにする作業が行われています。一人の学生のノートだけでは信用できないからです。

Q. 8 紀元前の哲学者の著作がほとんど残っていないのは、時代が古すぎるからですか。そもそも古代は、本を書いても今のように出版できないから、著作は1冊しかない、ということになるのでしょうか。

しかし、もしその哲学者が当時から有名であれば、その本は聖書などのように、色々な人に写されて今まで残るように思います。ということは、古代哲学者が評価されるようになったのは、後世になってからということになりますか。

A. 8 古代の哲学者の著作については、現在進行中の授業の、古代ギリシア哲学の特徴の三番目で、ギリシア人にとっての著作の意味と、著作の媒体の物理的条件について講述しますので、まあ、あわてないで授業を聴いて下さい。

授業でも指摘するように、1)ギリシア人はものを書くことを重視していなかったこと、2)書いても、著作の媒体の物理的条件（古代では、パピュロス、中世では羊皮紙）が保存に適さなかったこと、が原因として考えられます。しかし、他方、哲学ではないですが、ホメロスやヘシオドスなど、ソクラテスよりはるかに古いものが、文字に起こされたのは後世にしても、残っているのは、それが韻文だからです。つまり、文字で書かれなくても、記憶、暗唱によって伝えられたのです。哲学者のものでは、パルメニデス、エンペドクレスのものが、ソクラテス以前のものとして、比較的まとまって伝えられています。

Q. 9 自分が知っていたよりもキーネーシスの意味が広がったので驚きました。

A. 9 *κίνησις*(kinesis, キーネーシス)を、「運動」と訳さずに、日本語として、不自然かもしれない「動」（何であれ変化全般）と訳すのは、キーネーシスが、なるほど、多くの場合、「運動」の意味で使われるとしても、それ以外の意味があるからです。つまり、*φορά*(phora, ポラ)「場所的移動」、*ἀλλοίωσις*(alloiosis, アロイオーシス)「性質変化」、*αὔξις*(auxesis, アウクセーシス)「増大」、*φθίσις*(phthisis, プティシス)「減少」、*γένεσις*(genesis, ゲネシス)「生成」、*φθορά*(phthora, プトラ)「消滅」などの総称として、*κίνησις*(kinesis, キーネーシス)「動」と言われます。

Q. 10 広島大学の哲学科に心理学や社会学がないのは、特別だと先生は話されましたが、外国でも文学部哲学科に心理学や社会学が設けられているものなのですか？

A. 10 「広島大学の哲学科に心理学や社会学がないのは、特別だ」というのは、はじめから、ない、というのが、他の国立大学の文学部と違う、という意味です。外国といっても、国によって異なるでしょうが、大学史は、「専門じゃないのでわかりませんが」わかるかぎりと言うと、英語圏で、スタンフォード大学、ハーヴァード大学、オックフォード大学（たぶん、ケンブリッジも）、もともと、学部名は大学によって異なる場合もありますが、大体、Faculty of Arts and Science（文理学部）の中に、Department(学科、専攻)として、哲学から分かれて、心理学や社会学が置かれ、それが今では、独立して（建物も独立して、先生もひとつの学部ほど沢山いる）、Department of Psychology となっているようです。日本でも、私学や、一橋大学では、社会学部が独立して設置されていますが、心理学も社会学も美学・美術史も、19世紀に、哲学から独立して、成立した学問分野なので、日本の国立大学の文学部の哲学系に、心理学や社会学や美学・美術史があるのは、それらが学部として独立する前の形態を、時の明治政府が、欧米の大学を真似して作ったことによるのでしょう。

この点で、広島大学では、心理学や社会学や美学・美術史が独立しようにも、はじめから、文学部の哲学科には、心理学や社会学や美学・美術史がなかったのが、他の学部で作ったのです。それは、母体になった、旧制の広島文理科大学になかった、からでしょう。その代わり、といつては変ですが、戦時中には、國體學という専攻がつくられました。が、もちろん、戦後、國體學は廃止されました。この点でも、広島大学の（旧）哲学科（現在の、哲学・思想文化学コース）は、他と違って、よく言えば、特別、よく言わなければ、異常というか、変です（他と違うという意味です。少なくとも、私にとっては、違和感（異和感?）があります）。

西洋古代哲学史 第4回 (2016.05.02.(月→木))

レポート提出方法についての意見.

- 0) 直接, 手渡しで提出する 1
 1) ドアの下からすべりこませる 1
 5 2) メールで送信する 2
 3) 特になし 1

ということですが, 別途指示するように, 予備レポートに関しては, 授業時に, 直接, 手渡しで提出する, ということにします.

Q. 1 アリストテレスの学問の領域区分では歴史学は行為にかかわる学問に入りますか?

- 10 A. 1 どこにも入りません, というより, 歴史学は存在しません. アリストテレスにとっては, おそらく, ですが, 独立して, あるいは, 自律的な, 歴史学などというものはありません (つまり, 質問者がいう「歴史学」は, ヘロドトス, トゥーキューディデースなどの段階では, まだ, 学として成立していないのではないかと, ということです). これは, 質問者の考える, 「歴史学」の意味を明らかにしてからでないと, 答えようのない, というか, 不用意に何か言うと, 墓穴を掘ることになる, むづかしい問題です.

20 アリストテレスの場合は, 論理学関係のものを別にして, その他の学問分野については, アリストテレス以前の先行する諸学者の学説などを分野ごとに振り返って記述して, アリストテレス自身が自分の出発点を確認する, という作業を行っていますが, これが, アリストテレスにおける, 歴史的な記述になると思います. そうすると, 独立して, アリストテレスの場合は, 「歴史学」が独立してあるのではなくて, 各学問分野ごとに, 学説史や発展史のような形で, 各学問分野に付随して歴史的記述がある, ということになり, 例の, 学問分野の分類との関係でいうと, どの分野にもある (ただし, 論理学は除く) が, 独立した歴史学としては, どこにもない, ということです. そういう各学問分野のうち, 政治史ならば, 『政治学』や, 国制資料集のひとつとしての『アテナイ人の国制』などは, たしかに, 「実践, 行為にかかわる」学問に分類されるでしょう.

25 なお, 史学, ということについては, 史学思想というジャンルがありますから, 西洋のものでは, ドイツ語圏で, 近現代のものですが, マイネッケやトレルチ, それに, ベルンハイムなどのものを読めばよいと思います (もとはドイツ語ですが, 日本語訳があります). また, クローチェの『歴史の理論と歴史』, これは, もとはイタリア語で, *Teoria e storia della Storiografia* ですから, 『歴史記述の理論と歴史』というのが題で, しかも, 最初に出版されたのは, ドイツ語訳でした.

30 しかし, 古代ギリシアにも言及しているものとして, おすすめは, 英語で書かれた, コリングウッドの『歴史の観念』です (R. G. Collingwood, 1946, *The Idea of History*, Oxford.). これも, 日本語訳があるはずですから, 探してみてください.

Q. 2 プリント 4 ページの 1. 150 で「・行為にかかわる」と「・制作にかかわる」を区切ったことに対して, 少し疑問を感じました. (対象が違うからでしょうか?)

- 35 A. 2 praxis (プラークシス, 実践, 行為にかかわること) と poesis (ポイエーシス, 制作, 制作にかかわること) の区別についての説明をしなかったのが, ここで追加しておきます. このアリストテレスの分類では, 「実践, 行為にかかわる」のほうは, その「行為」そのものが (学問が関心をもって考察する) 対象であり, その行為の結果, 生じるであろう, 物理的事物 (もの) は, 二次的にしか問題にされません. アリストテレスの場合, 倫理学 (人柄についての学) と政治学 (ポリスについての学) は, 「よく行なう」という「行為」そのものに焦点があてられ, 考察対象になります. それに対して, 「制作, 制作にかかわる」のほうは, その「制作」の結果, 制作された作品そのものの良し悪しが問題になります.

Q. 3 個人的にですが, アリストテレスの学問領域区分における「数学」が, 行為にかかわるも

のに区分できると思いましたが、「数学」の解法という点では、対象が他の仕方でもありうると思ったのですが、どうなのでしょう。

A. 3 「解法」という点を指摘されているので、「対象」は、他の仕方ではありえない「必然的な」対象であると思います。例えば、現在の私たちならば、ピュタゴラスの定理（三平方の定理）
5 を証明するのに、幾何学的（これが何通りもあって、そういうものを集めた Web サイトがあります）にもできるし、三角関数を使ってもできるし、というように、「同一の」対象を、外見上、異なる「解法」「方法」で扱うことができますが、「対象」としているものは、あくまでも、他の仕方ではありえない「必然的な」対象です。

Q. 4 古代ギリシアの奴隷って、現代での、いわゆる"人格がなく、搾取される階級（←「奴隷」
10 の定義もかなりアヤシイ）である「奴隷」と同じようなものだったんでしょうか？ コメント紙 7 ページのスコレーに関する記述から考えるに、そうじゃないのでは... あと、もし奴隷に関する文献で先生のオススメがあれば教えて下さい。

Q. 4' 古代において、奴隷の哲学がなかったのは、言語修得の問題でしょうか？ 思考する余裕がなかったからでしょうか？ 伝える媒体の問題でしょうか？

A. 4 社会経済史は、専門じゃないのでわかりません、とまず、言っておきます（西洋史学の
15 専門家にお任せします）。が、古代後期の人ですが、エピクテートスという哲学者というより哲人がいましたが、彼は、もとは奴隷でした。ギリシア人のポリス（都市国家）の中で、市民権をもたない者が奴隷だったので、奴隷といっても、肉体労働にたずさわる者もいれば、家庭教師や家政の執事まで含む知的な仕事をする者も含まれるので、主人よりも奴隷の方が知的には優れている（現代風にいえば偏差値が高い）場合もあったようです（この点で、今、私は自分が奴隷の立場
20 にいるような気がしています）。

Burckhardt, J., 1898/1902. *Griechische Kulturgeschichte*, 4 Bde., Berlin-Stuttgart.

Bayer, E., 1987. *Griechische Geschichte*, 3., verb. Aufl., Stuttgart: Kröner. (Kröners Taschenausgabe; Bd. 362)

25 Vogt, J., 1958. *Wege zur Menschlichkeit in der antiken Sklaverei*, Tübingen.

Vogt, J., 1972. *Sklaverei und Humanität. Studien zur antiken Sklaverei und ihrer Erforschung*, Wiesbaden.

Finley, M. I., 1981. *Die Sklaverei in der Antike. Geschichte und Probleme*, München.

J. ブルクハルトの『ギリシア文化史』は、日本語訳で読めます（ブルクハルト／新井靖一訳、
30 『ギリシア文化史 I』、第 2 章「国家と国民」第 2 節「ポリスとその歴史的発展」4 「奴隷制」、pp. 313–351、ちくま学芸文庫。）。

なお、別のところでも、紹介したかもしれませんが、西洋史学にかかわるか、かかわることに言及するならば、次の二書は必読です（古いけれども、重要です。批判するにせよ、援用するに
せよ）。

35 Coulanges, Fustel de, 1924(1864). *La cité antique*, Paris. (フュステル・ド・クーランジュ／田辺貞之助訳、1995(1961, 1944), 『古代都市』、白水社。)

Pirenne, Henri, 1927. *Les villes du moyen âge. Essai d'histoire économique et sociale*, Bruxelles. (アンリ・ピレンヌ／佐々木克巳訳、1970, 『中世都市—社会経済史的試論—』、創文社。)

Q. 5 余暇が多い方がいいという考えは、私個人のイメージにおけるギリシャ人の一般的な考
40 え方に近い気がするのは気のせいだろうか。

A. 5 気のせいではないと思います。余暇はあったほうが、「よか」。(すみませんでした)

Q. 6 アリストテレスの学問の領域区分には「なるほど」と納得しました。しかし、これに異を唱えた哲学者はいるのか気になりました。また、いるなら、どのように批判をしたのでしょうか。

A. 6 授業で紹介したレヴィナスが、その一人です。学問の領域区分そのものを批判したのではありませんが、アリストテレスでは、第一哲学=形而上学（存在論・神学）とされるのに対して、レヴィナスでは、第一哲学=倫理学、と主張しています。その理由は、授業で述べたように、visage（まなざし、顔）をもちだしてきます。そもそも、アリストテレスの学問の領域区分自体が、ある意味で、プラトン（それも、ソクラテスの影響を受けたプラトン）に対する批判からでてきたとも考えられます。ただ、第一哲学、という表現は、後世の人たちにとっても、魅力的だったようで、この名称（第一哲学）を冠する著作を残した人たちがいます。誰だか、調べてみて下さい。

Q. 7 E. Levinas について興味が出てきたので、本を読んでみようと思います。（これは読んだ方がいいという著作がありましたら教えてください。）

A. 7 例によって（またか！）、専門じゃないのでわかりませんが、わかる範囲でお答えすると、現代フランス思想の入門書を読んでもよいですが（それだけでは、ショーペンハウアー先生とヤスパース先生に叱られますから）、まず、原典（フランス語）で読むことを勧めますが、次の2冊でしょうか。

1) Lévinas, Emmanuel, 1961, *Totalité et infini, Essai sur l'extériorité*, La Haye / Boston / Londres : Nijhoff. (レヴィナス／熊野純彦訳, 2005-6, 『全体性と無限（上）（下）』, 岩波文庫)

2) Lévinas, Emmanuel, 1974(1991), *Autrement qu'être ou au-delà de l'essence*, Dordrecht / Boston / London : Kluwer. (レヴィナス／合田正人訳, 1999(2012), 『存在の彼方へ』, 講談社学術文庫)

Q. 8 文字に起こした方が、思考を深められると考えていましたが、対話を重視していた古代の哲学者にとっては、その場で意思の確認検証が行える対話の方が適していたのは納得しました。

A. 8 文字で書かれたものを、一人で、じっくり時間をかけて考える、ということ排除するものではありません。しかし、一人で考えるということも、プラトンは（そして、この点では、プラトンの発想を受け継いでいるアリストテレスも）、自己との対話である、とみなしています。つまり、ひとりで考える、ということは、本人が意識していなくても、自分と対話している、ということなのです。

Q. 9 古代ギリシアにおいて、耳の聞こえない人は、紙の上に書かれたことばえを読むことに限定され、生命をもったことばを聞き取れません。そのような人々は生まれた瞬間から哲学者としての道は閉ざされてしまうのでしょうか。

A. 9 プラトンが『パイドロス』で言っていることは、書かれた文字が読み手によって読まれるだけで、書き手のやりとりがない場合（通常、我々が想定する読書がそうです）のことです。書き手が過去の人の場合は、やむを得ませんが、書き手も読み手も同時代にいれば、音声を伴わなくても、筆談や、手紙のやりとりで、問答（ディアロゴス）ができますから、耳が聞こえなくても、原理的には大丈夫です。実際、江戸時代のことですが、荻生徂徠は、中国から来た学者と中国語で筆談したことが伝えられています。デカルトの『省察』につけられた「反論と答弁」（議論がかみあっていないところもありますが）も、方法としては、筆談と同じです。問題は、書かれた文字による著作が、読み手によって読まれるだけで、書き手に質問したりできない状況にあるときです。現在でも、手紙を送って返事をもったり、論文や本を書いたら、それを送って、読んでもらい、批判してもらい（意見を言ってもらい）ことを、すべて書かれた文字で行なっても、それは書き手と読み手の間に、やりとりがあれば、それは、原理的に、生きたことばによる、問答（ディアロゴス）の一種とみなしてよいと思います（実際に、両者が会って、音声でやりとりするときよりも、もどかしいことが多いだろうし、時間もかかるでしょうけれども）。

Q. 10 史料の問題についてですが、逆になぜプラトンだけはほぼ完全に残っているのでしょうか。

A. 10 プラトンの著作がほぼ完全に残っているのは、奇跡と言ってよいと思います。また、著

作は散逸して断片的にしか窺い知ることができませんが、講義ノート類が、これもまた、ほぼ完全に残っている、アリストテレスの場合も、偶然が重なった奇跡と言えると思います。どちらも、話せば、長い話になるので、授業で折をみて、ぼちぼち、お話しします。

5 Q. 11 韻文というと、作為的に作った言葉のように思うので、文字に起こすよりも、伝えるに
5 どのように思います。

A. 11 質問のポイントがわかりにくいのですが、(1) 韻文を記憶して（文字によらずに）口伝
で伝える、のと、(2)（韻文でないもの、つまり、散文を）はじめから文字に書いて、それを伝える、
という、(1)と(2)を比較すると、(1)よりも、(2)のほうが、伝達の方法としては、優れている
ので、伝わりやすい、ということでしょうか。

10 そうだとすると、事実は逆で、信じられないかもしれませんが、実に、（今、文字の文献になっ
ている）多くのものが、もともと、口伝で文字によらずに、伝えられています。文字に書かれた
写本は、ものとしての写本が物理的に（戦争や天災で）失われれば、それまで、人は生き残っ
ても、写本の内容は消滅してしまいますが、はじめから、記憶によって、口伝で伝えられたもの
15 は、人が生き残りさえすれば、戦争があっても天災が起こっても、後世に伝わります。あの長大
な、ホメロスの叙事詩がその例です。インドでは、パーニニの文典がそうでしょう。これらは、後
世になって、文字化されたのです。

また、韻文についてですが、「作為的に作った言葉」だからこそ、逆に、リズム、韻律があつて、
覚え易いのです。覚えて記憶にあるものは、用意に文字化することができます。

20 Q. 12 中国哲学史などの名称が中国思想史などに変わったということは、哲学という呼び方は
20 合わないということからなのでしょう。

日本や中国などの思想は私は全てがギリシア哲学の流れを汲んでいるわけではないと思います。
ギリシア哲学に関わっていない思想は、哲学とはいえないのか、それとも全く関係がないように
思われる思想でも全てがギリシア哲学の流れを汲んでいるのでしょうか。

25 A. 12 あえて、「ギリシア哲学に関わっていない思想は、哲学とはいえない」と思います。た
だし、「ギリシア哲学に関わっていない」の「関わる」ということの意味は、「流れを汲む」という
ことではありません。直接、間接に「ギリシア哲学」から、事実上、歴史上、影響を受けていなく
ても、「ギリシア哲学」とは、まったく交渉をもたず、独立に、行われていても、その発想や問題
提起の仕方、思考方法が、原理的に同じであれば、南極でも、アフリカでも、「哲学」はありえる、
30 と思います（それは、ほとんど奇跡的ですが）。日本の場合は、明治以前は、安土桃山か江戸初期
に少し、直接の情報が伝えられましたが、ほとんど、「ギリシア哲学」とは関係なく、思索が行な
われていましたが（数学は独自に進められていました）、明治以降は、明らかに、文献の上でも、
「ギリシア哲学」と関わってしまっていますから、意図的に、西洋から入った発想や知識を排除し
ないと、「ギリシア哲学」とは関係ない思索はできないと思います。

35 また、前半の、「中国哲学史などの名称が中国思想史などに変わった」件は、ここ数十年のこと
ですが、研究対象が、中国に独自の思想なので、ギリシア哲学や西洋哲学史を連想させる「哲学
史」という表現を使わずに、「中国思想史」とか「中国思想文化学」という名称に、意図的に変更
したのだと思います。ですが、現代では、地理的には、中国にあつても、「西洋哲学史」を西欧語
（原語）で研究して、ギリシア哲学の発想を知った上で、「哲学」をしている人たちもいます。こ
の人たちを、「中国思想史」や「中国思想文化学」の立場からは、どのように扱い、記述するの
40 でしょうか。同じことが、特に、明治以降の日本についても言えます。「日本思想史」ではなくて、
「日本哲学史」という言い方がありますが、命名者の意図をどう理解するべきか、微妙ですね。

西洋古代哲学史 第5回 (2016.05.12.)

Q.-1 ... 右腕に時計をつけている理由が気になりました。教えてほしいです。

A.-1 今は、ほとんど、弾いていませんが、以前は、チェロを弾いていたので、左腕に時計をすると、ヴィブラートをかけるときの振動で、時計に悪影響を与えると考えられていて、右腕に時計をする習慣がついているからです。

Q.0 今日は実物の古文書を見ることができて非常によい経験ができました。

Q.0' 古い文書扱いにはもう少し注意した方がいいと思います。私も日本史学で古文書を目にすることがありますが、500年以上も前の文書はやはり劣化しやすいので注意した方が良かったと思います。

10 Q.0'' およそ500年前の本の実物を目の当たりにするとは思わなかったです。

Q.0''' 1578年の文献が残っていることに感動しました。

Q.0'''' 大事な本をそのままもってきていましたが、傷が付いたりしないのですか。

Q.0''''' 今日見たプラトンの本は現代の本と比べるとかなりサイズが大きかったのですが、古代の本は全てそのように大きいのですか。

15 A.0 見てもらった本は、古文書ではなくて、初期刊行本です。これと同じものは、日本では何カ所にあります。私が受け継いだときから、すでに、外装にへこみやよごれがありました。これ以外にも、何点かありますが、Stephanus版は、一番古い部類に属します。もっと新しい時代の刊行本（しかも、これは貴重図書ではありません）は、紙質のせいか、ページをめくるのもこわい状態のものがああります。特に20世紀前半のものが酷い感じで、逆に19世紀(1800年代)のもの
20 のほうが丈夫だったりします。この初期刊行本も、一葉、一葉の文書と違って、製本もしっかりして、かなり、丈夫です。それでも、本来は、温度・湿度などの管理をするべきだろうと思
います。現在の自然環境にまかせています。

また、本の大きさですが、フォリオ(Folio)と言って、全紙を二つ折りにした大きさの、大きい本なのは、基本的に、持ち運びすることを前提としていないからです。それから、15世紀の印刷
25 ですから、内容は古代のものですが、本としては（ものとしては）、近世の本です（古代には、巻物はあっても、冊子体の本はなかったらうと思われます）。

Q.1 アリストテレスの学問領域において、「制作」の中に「詩学」とあったのですが、聞きなれ
ません。具体的にどのような学問なのでしょう。

A.1 聞き慣れない、とすれば、質問者は住んでいる世界が違うからでしょう（関心をもって
30 暮らしている対象領域が違う、という意味）。『詩学（創作論）』は、西洋文学の分野では、知らなければ恥をかくような、その分野ではやっていけない、というような定番の古典的作品なので、私など、耳にたこができるほど、聞き慣れているので、そういう意味で、新鮮な質問です。また、書名は有名なわりに、本文をきちんと読んでいる人が少ないことでも知られています。例えば、これも、周知の、「三一一致の法則」はこの中で論じられています。岩波文庫の、アリストテレス『詩
35 学』・ホラーティウス『詩論』か、世界の名著『アリストテレス』所収の『詩学（創作論）』を探して読んで下さい。

Q.2 古代では有名であったけれども、時代が下るにつれて、文献が写されなくなり、忘れ去られた哲学者も相当数いるのではないのでしょうか？

A.2 そういう人はいたのかもしれないでしょうが、伝わっていないので、実際のところはわ
40 かりません。ただ、名前だけ伝えられる、ということになるでしょう。少しでも、学説が分かっている者は、例えば、ディオゲネス・ラエルティオスの『ギリシア哲学者列伝』（岩波文庫で、邦訳があります）で分かります。

Q.3 プラトンの著作が完全に継承されてきたというのは、偽作の混入の可能性があるとのことであるが、本物と偽作を見抜くすべはないのか？

A. 3 思想内容と、文体の研究から、ある程度、推測はできますから、学者によって意見の異なるところはありますが、プラトン自身の作ではないだろうとされている対話篇はあります。

Q. 4 パピルスは日本でいうと和紙のようなものなののでしょうか？

A. 4 現物を見せるのが感覚的に一番分かり易いのですが、私は、ものとしての、パピュロス (papyrus) を扱うことを専門にしている暇でないので、これを紹介した文献を紹介しますので、ここに出来る、植物名やものの名称で、不明のものがあれば、自分で調べてみて下さい。和紙は、楮 (こうぞ) や、三桮 (みつまた) が原材料ですが、ちょっと、違うようですね。

それでは、古代の書物はどのようなものであったのか。それはパピュロス (papyrus)—つまり「かやつり紙」—の巻物であった。これは昔エジプトで盛んに栽培された莎草 (はますげ) の一種を原料とするものであった。その製法は、その茎—三角形の横断面をもつ—のところを一定の寸法に切り、その皮をはぎ、髓を取り出して、これを並べて縦横十文字に重ね、粘り気のあるナイルの河水にひたし、それが膠着したところを日光にさらして乾かす。それからこれを槌で打ち、最後に象牙の器具を用いてこれをこすり、つや出しをすると、そこに真白な紙が得られることになる (Plinius, *Naturalis historiae* XIII. xxi-xxvii. 68-69)。大きさはいろいろあるが、最大限で縦が一尺二寸五分 (約 37 センチ)、横が七寸六分 (約 23 センチ) くらいというところであろうか。この紙を二十枚くらいつないで一卷の書物ができるわけだ。このパピュロスは出来たては美しく軽やかで、しかも丈夫なのだけれども、少し時がたち、何度も使っているとすぐに弱り、湿気に負け、虫がつきやすい—これの予防に杉油が用いられたりしたが—という欠点をもっている。だから例外的に乾燥地でその断片が発見されるだけで、パピュロスの巻物はほとんどすべてが失われてしまったのである。むろんこれを防ぐために、パピュロスの巻物を革紙の綴本に書き替える仕事も、古代末から中世はじめにかけて行われたわけである... [田中美知太郎, 1979, 『プラトン I』, pp. 189—190.]

Q. 5 アリストテレスの学問の分類について、「歴史学」というものの見方の要素はどこにふくまれるのでしょうか。

A. 5 前回 (第 4 回 (2016.05.02.(月→木))) の Q. 1 に対する A. 1 で述べたように (読んでいませんか?), 観想, 実践 (行為), 制作の区分の中に、単独で、独立して、「歴史学」は、どこにも位置しません。というより、「歴史学」はありません、というのが答です。実際に、アリストテレスの記述を読むと、「歴史」的なものが見方があるのは、「論理学」以外のすべての分野において、先行研究を振り返るような形で、アリストテレスに至までのその学問分野の前史というかたちで現れています。政治史や社会経済史的な考察であれば、人間や人間の集団による行為が考察対象となるでしょうから、実践 (行為) に、分類されそうですが、そもそも、おそらく、質問者が考えているような「歴史学」が成立していませんから、分類としては、どこにもない、しか言いようがありません。(それから、この質問者が書いてくれた日付は、「4月12日」となっていますが、正しくは「5月12日」です。時間の感覚は大丈夫ですか。)

この点について、前回紹介した、コリングウッドは、*Anti-historical Tendency of Greek Thought* という S を設けて説明していますから、是非、読んで下さい (R. G. Collingwood, 1946, *The Idea of History*, Oxford, pp. 20f.).

Q. 6 コリングウッドの歴史の観念 (ママ, 『歴史の観念』) が、英語版を読んだほうがはやく、というのは、理解しやすい、ないし、読みやすいということですか。

A. 6 いい (よいです)。実は、私は、翻訳をもっていないし、存在することは知っていますが、見たことがありません。原典のほうが容易に入手できたので (大学 2 年のとき)、英語でしか読んでいませんが、分かりやすい、明確な英語です。

Q. 7 例えば、同じ詩作にしても、行為そのものに重点をおくか、出来上がった作品自体に重点をおくかで、プラークシスになったり、ポイエシスになったりするということか。

A. 7 そうしたことだ (そういうことです).

Q. 8 アリストテレスは学問の分類としているけど (ママ, けれども), 今日の例のように, あらゆることがこの3つに分けられるという考え方はおもしろいなと思いました.

5 A. 8 哲学 (ピロソピア) が, 学問・学知の別名で, およそ, 知りうるすべてのことを対象とするならば, 未だ, 学問名がなくても, 対象があるかぎり, それを扱う学がある, という考え方による分類です.

Q. 9 授業中に何度も殺されたから気になったんですが, アリストテレスの死生観ってどんなものだったんでしょうか.

10 A. 9 どんなものだったんでしょうねえ〜. そういう人生観的な発想は, 厳密性を要求する哲学から, 遠いところにあるので, 私は, 関心がないというか, 考えたこともありませんが, アリストテレスの書いた物から, 読み取ることにはできるかもしれませんが, 気になるんだったら, 全集を讀破して, 調べてみたらいかがですか. ただ, 古代ギリシアの哲学者にある程度共通しているのは (現代風の言い方をすると, 喩物論的な原子論者は別です), 魂 (プシューケー) と肉体 (ソーマ) から成り立っている, 生きている人間は, 魂 (プシューケー) だけで存在できれば, そのほうが望ましく, 従って, 肉体 (ソーマ) を脱ぎ捨てる (つまり, 普通の言い方をすれば, 死ぬ) こと
15 によって, 魂だけになる (そして, 魂だけで存続することができる) というのを, 望ましいことであると考えていたようです.

Q. 10 古代の哲学者の思索の残り方は, 文献と人が暗記して伝える以外に何か方法はあったのですか.

20 A. 10 それ以外に思いつきませんが, 何かあるでしょうか.

Q. 11 パピルス→羊皮紙と, 保存方法は変化してきましたが, 現在はコンピューター上で保存されています. 今後 1000 年から 2000 年を経ても, 現状の方法で後世の人々に伝えることができるかと疑問に思いました.

25 A. 11 そうですね. 文字による伝達は, 紙 (パピルス, 羊皮紙, 石などでも) に書いても, 電子データでも, 情報の保存と伝達はできても, 問題は, それを読む, 1000 年後, 2000 年後の人間が, それを文法的に正しく読解し, そして, 発音できる知識を受け継いでいるかどうか, にかかっている, と思います.

西洋古代哲学史 第6回 (2016.05.19.)

Q.0 全く授業に関係ないんですが、(すみません..)先生の年齢はおいくつでしょうか? すごく気になりました。

A.0 読むように、と、すでに配布している資料や、Web 上にも経歴が記載されているので、それを読んでいけば、出ない質問です。自分で調べて下さい。

Q.1 戦争をしばしば行うから死に対する感覚・抵抗が薄く、(魂は肉体に縛られているのに関わらず)自殺は良くないといましめられているのは、他国の宗教でもよく聞く気がする。

A.1 戦争ということについてですが、戦争が総力戦(近代でも古代でも)になると、(精神的にも物理的にも)余裕がなくなるので、この限りではありませんが、古代のギリシア人は、双方が一定のルールに従った上で、競技的に争って勝敗を決める、ということ(何故かわかりませんが)好んでいました(これは、精神的にも物理的にも余裕がないとできない、一種の「遊び」です)。次は、ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』(初版は、1938年)からの引用ですが、総力戦ではない、余裕のある戦争についての報告です。

De oorlog tusschen de beide steden van het eiland Euboea, Chalcis en Eretria, in de 7e eeuw v. Chr., werd volgens de overlevering geheel in wedstrijdvorm gevoerd. Een plechtige overeenkomst, waarin de regelen van den strijd waren vastgesteld, werd in den tempel van Artemis gedeponneerd. Tijd en plaats van den strijd werden aangewezen. Alle werpwapens: speer, boog en slinger, zouden verboden zijn, alleen zwaard en lans mochten beslissen. [Johan Huizinga, *Homo ludens. Proeve eener bepaling van het spel-element der cultuur*, in: Johan Huizinga, *Verzamelde werken V. Cultuurgeschiedenis III* (ed. L. Brummel et al.). H.D. Tjeenk Willink & Zoon N.V., Haarlem 1950, p. 124.]

According to tradition, the war between the two Euboean cities, Chalcis and Eretria, in the 7th century B.C. was fought wholly in the form of a contest. A solemn compact in which the rules were laid down was deposited beforehand in the temple of Artemis. The time and place for the encounter were therein appointed. All missiles were forbidden: spears, arrows, slingstones; only the sword and the lance were allowed. [Johan Huizinga, *Homo Ludens. A Study of the Play-element in Culture*, London: Routledge & Kegan Paul, 1949, p. 96]

伝承によると、前七世紀、エウボイアの二つの都市カルキスとエレトリアのあいだに起こった戦争は、ことごとく競技形式によって戦われたという。戦闘の規定を記したいかめしい協定書が、まえもってアルテミスの神殿に奉納された。戦いを交じえる日時と場所はそのなかに指定してあった。あらゆる飛び道具—投槍、矢、投石器の類は禁じられて、ただ刀剣と槍だけが許可されていた、といわれる。(ホイジンガ/高橋英夫訳『ホモ・ルーデンス』、中公文庫、p. 204。—ただし、この高橋訳は、ドイツ語版からの重訳)

戦争といえば、総力戦しか思いつかない、近現代の人ならば、こんなものは、戦争とは言わない、と言うでしょう。

Q.2 ギリシャ人は魂が中心で肉体はただの操り人形だと話されましたが、それではなぜ古代オリンピックのような肉体を鍛えるものが発達したのですか。

A.2 魂が中心で、肉体はただの操り人形、と言っても、肉体よりも魂を尊重する、ということは、肉体をもって現世に生きている限りは、肉体をはじめ、物質的なものも、魂は最大限、有効に活用してこそ、優れた魂である、と考えられます。ですから、SF映画か何かに登場するような、頭脳だけ異常に発達して、身体が貧弱になってしまった異星人のイメージは全然、あてはまりません。

そして、A.1で言及した、「古代のギリシア人は、双方が一定のルールに従った上で、競技的に争って勝敗を決める、ということが好き」ということと関係があります。この「競技」は、*ἀγών*(agōn,

アゴーン)と呼ばれ、「一定のルールに従った上で、競技的に争って勝敗を決める」ということがあてはまるかぎり、音楽、詩、体育、騎馬など、何でも、アゴーンと呼ばれました。悲劇の上演も、作品の優劣を決める競技(アゴーン)として行なわれました。体育の競技である、古代オリンピックも同様です。そして、音楽や詩などは、もちろんですが、体育、騎馬も、魂があやつる、
5 肉体がどんなに立派でも、その肉体をあやつるべき魂が劣悪(馬鹿)では、競技には勝てませんから、単に肉体が立派なだけではダメで、魂の優秀さが求められます(馬鹿力で勝つのではなくて、技で勝つ)。

しかし、現実には、肉体ばかり、鍛えて立派になっても、魂がそれに見合っていない(おつむがたりない)、という例はよくあることです。少し、時代は下りますが、ローマ時代の風刺詩人、
10 ユウェナリス(Juvenalis, 60—130)の次の言葉がありますが、「健全なる精神は健全なる身体に宿る」(A sound mind in a sound body)と訳されて、各時代に都合のよいように使われています。

sit mens sana in corpore sano [Juvenalis, *Saturae*, 10, 356.]

健康な身体に健全な精神がありますように。

「健全な精神は、健全な肉体にやどる」という平叙文は(これを勝手に主張するのはその人の自由ですが)、こうではなくて、もともと、「健全な精神(すぐれた、よい魂)が、健全な肉体(きたえられた立派な肉体)にあればよいのに(接続法で、願望、希望を表す)」というのがもとの形
15 なのです。

Q.3 民族ごとに簡略化した人間の像をどう描くかについて興味が湧きました。スネルやアリストテレスを読まないとなあ、とも。

20 A.3 読んで下さい。

Q.3' 四肢について初めてその真の意味がわかったような気がします。よく私たちが書く?(ママ、描く)棒人間は、当時の人々からしたら理解しがたいものかもしれませんね。

A.3' しれませんね。

Q.4 アリストテレスの魂の考え方は、肉体の周囲に付随しているものですか? それとも、肉
25 体+体の廻りの気配=魂ということですか?

Q.4' 魂は体の中にあると思われていたと考えていたので、身の回りも魂の範囲だという考えがあったというのは意外でした。

A.4 & 4' でしたか。ただ、魂は、三次元空間にあるものではないので、身体のまわりの透明の球体というイメージは、もし、三次元空間に、魂があれば、どう表現できるかを、魂が何かわ
30 からない人に対して、例えとして説明するための比喩です。しかし、イメージとしてはあたっていると
思います。

Q.5 魂だけになる、存続することが望ましいという感覚があまりピンとこなく、違う死生観だなあと感じました。

Q.5' 魂という言葉はよく使ったり聞いたりしますが、魂とは結局何なんでしょうか。定義つ
35 てあるんですかね? 魂—肉体の関係はなんとなくわかりましたが。

A.5 & 5' 魂とは何か、わかりません。私が専門に研究している、アリストテレスをはじめ、古代ギリシアの哲学者は、しばしば、*ψυχή* (psūchē, プシューケー)という言葉を使いますが、何だ
40 かよくわかりません。わからないから、研究しているわけですが、ああ、なんだあ、そうか、というレベルでわかることだとは思っていません。たぶん、そのレベルでは、わからないでしょう。アリストテレスの表現では、その定義は、

ἀναγκαῖον ἄρα τὴν ψυχὴν οὐσίαν εἶναι ὡς εἶδος σώματος φυσικοῦ δυνάμει ζωὴν ἔχοντος.
[Atist. *De anima*, B1, 412a19–21]

従って、必然的に、魂は、可能的に生命をもつ、自然的物体（身体）の形相という意味での実体である。（アリストテレス、『デ・アニマ（魂について）』、II 巻、1 章、412a19-21）

ということになります。これを理解するためには、少なくとも、「可能的に（*δυνάμει*）」「自然的（*φυσικοῦ*）」「形相（*εἶδος*）」「実体（*οὐσία*）」の意味から考えなければならないので、週 1 回の講義では、私の力不足のため、1 年以上かかると思います。ですから、簡単にわかるだろうとは、期待しないで、アリストテレスの『デ・アニマ（魂について）』という書物を探して、読んでみることです。現在、日本語訳は、4～5 種類はあるはずで

Q. 6 レポートを書くときに、原本は読めないで翻訳されたものを読もうと思ったのですが、翻訳する人によって、解釈が異なっていることもあるかもしれないから、誰の本を読んだら良いのか分からなくなりました。

A. 6 翻訳が複数ある場合、どれでも選べる状況なら結構ですが、ひとつしか入手できないこともあるので、とりあえず、手に入ったものを読み、引き続き、他の翻訳も手に入れるように努めて、もし、疑問に思う点があれば、他の翻訳で、その箇所を比較する、というやり方でよいと思います。

Q. 7 1830 年（ママ、1831 年）の本がまだ切っていないということは、当時だれも読んでいなかったということですか。

A. 7 はい、少なくとも、この本では、しかし、ここに収録されているのと同じテキストが別の版でも出版されていますから、それは読まれていたでしょう。私が入手した本が、たまたま読まれていなかった、ということです。私も、アリストテレスのテキストのラテン語訳は、もっと新しい印刷の別の版で読んでいます。

Q. 8 クセノフォン（ママ、クセノポン）のソクラテスについてもっと知りたいなと思いました。プラトンは哲学者でソクラテスを尊敬していたのだと思うので、美化したところもあるんじゃないかなと思います。クセノフォンは（ママ、の？）ふつうのおじいさんのようなソクラテスのほうが私にはリアルな感じがしました。

A. 8 是非、クセノポンを読んで下さい。

クセノポン／内山勝利訳、『ソクラテス言行録 I』、西洋古典叢書、京都大学学術出版会。

クセノフォン／佐々木理訳、『ソクラテスの思い出』、岩波文庫。

因（ちなみ）に、ソクラテスに関するものではありませんが、クセノポンには、『アナバシス』という著作があり、ヨーロッパでは、昔、中学・高校のギリシア語の授業でよく読まれたので、専門でない人でも、子供の頃、『アナバシス』をギリシア語で読んだことがある、という経験があることを前提にした話で、ギッシング (G. Gissing, 1857-1903) が、『ヘンリー・ライクロフトの私記』 (*The Private Papers of Henry Ryecroft*, 1903.) という作品の中で、次のように書いています。

But I am thinking of the *Anabasis*. Were this the sole book existing in Greek, it would be abundantly worth while to learn the language in order to read it. [G. Gissing, *The Private Papers of Henry Ryecroft*, 1903, Summer, IX.]

Q. 9 プラトンによれば、ソクラテスは自信をもって自分の信念にもとづいて生きていたようだけど、ダイモンが助けてくれるから自信がうまれていたのだとしたら、ちょっと残念だなと思いました。

Q. 9' ……いつの時代も人は「生かされている」、神に「支配されている」と望むものなのではないでしょうか。自分の行為を誰かまかせにしたいものなのではないでしょうか。

A. 9 & 9' ソクラテスのダイモンに関しては、残念ですね。しかし、こうも考えられます。別に、ソクラテスの肩をもつわけではありませんし、これは、古代ギリシアの哲学者よりも、中世のキリスト教哲学に対して、しばしば、向けられる批判、というか、感想なのですが、次のよう

に考える人もいます。問題のポイントは少しずれているのですが、生きる上での困難度は、かわらないどころか、難易度は一層高くなる、という考え方です。

5 神を信じる（信仰をもつ、あるいは、俗な言い方をすると、宗教に「はしる」と、その教えに基づいて行動を決めることができるようになるので、意志決定が楽になると考えている人がいる。しかし、そんなことはない。我々の意志決定は、常に自分の事だけではなく他者の事をも念頭に置いて行なわれるが、「神」という他者をも考慮に入れることによって、意志決定は遙かに複雑になる。

10 これは、生き方の選択の問題ですから、その選択は個人の責任でしょう。古代ギリシアの神々よりも、キリスト教やイスラム教の神やアッラーのほうが、遙かに、人間に対して厳しいので、その信仰のもとで生きる人たちの思索（哲学）と、そうでない人たちの哲学では、お互いに、相手の選択した立場に身を置いて考えないと、相互の理解は難しいでしょう。

Q. 10 音楽と哲学の関係性はなんですか。赤い（ママ、赤井）先生もチェロをやっていたそうですが、なにかかかわりがある気がします。

15 A. 10 数学が関係あると思います。作曲も演奏（ただし、演奏は、魂だけではなく、身体がかかわりますが）も、数的な比率や、比率 (logos, ratio)、という意味で、合理的 (logical, rational) でないとやっていけない面があります。中世の大学の「三学四科」もこれを反映しています。

20 Q. 11 英語版の方の方が分かりやすいから、日本語版よりもそちらを読んだ方が良いと言われていましたが、英語があまり得意でなく読めません。他にも、哲学書はアラビア語やギリシア語で書かれていると言われており、語学が非常に重要であると思います。先生はどのように語学の勉強をされましたか。

A. 11 ある文献を読もうとしたら、自分の知らない言葉で書かれていたので、それを読むために、その言葉の文法と語彙を学ぶ、というだけのことです。読むように、と、すでに配布している資料（『人文学へのいざない』の2つ）を読みましたか？

Q. 12 先生は現地調査に行くときは、どのようなことを行なわれるのですか。

25 A. 12 ほとんど、行きません。行くときの行き先は、大学やその図書館で、そこに行かなければ、閲覧できない文献を読むことと、研究者に会うこと、です。

30 1945年に亡くなった、R. A. ニコルソンというイギリス（ケンブリッジ大学）のイスラム神秘主義の研究者を知っていますか。彼の著作（研究論文、翻訳）は、いまでも、イスラム神秘主義の研究（アラビア語、ペルシア語の文献）にはかかせないものばかりですが、彼は、生涯にわたって一度も現地を訪れたことがなく、また現地語を一言も話さないまったくの書齋の学者でした。しかし、かれの業績は、いまだに、研究者にとって必読文献であり続けています。フィールド・ワークが必要な分野ではこうはいかないでしょうが、文献学や哲学ならば、どこにいても、一定の水
35 準以上でできなければならないし、できるものである、という証明のような学者です。もっとも、ニコルソンの師であった、ブラウンは、逆に、現地語を自由にあやつり、現地人の衣服を着て、現地を歩き回った人でしたが。

Q. 13 魂についての話をされていましたが、幽霊は存在するのでしょうか？（因に僕は信じています）

A. 13 ある、とか、いる、とかわかる人にとっては存在するのだと思います。

40 Q. 14 古書の雰囲気、茶色い感じやシミなど好きなので、今週も拝見することができて幸せでした。印象としては「字が小さい。」でした。

A. 14 私も、高校生ときから、神戸・三宮にあった、後藤書店（阪神大震災でなくなってしまいました）、という古本屋（1階は和書、2階は洋書）で、あれこれ手に取ってみるのが好きでした。

西洋古代哲学史 第7回 (2016.05.26.)

第6回 (2016.05.19.) にコメントできなかった Q. について補足.

Q. -1 先生が学生時代の時に、ストライキをしたと言われていましたが、その目的はどのようなものだったのでしょうか？

5 A. -1 今では、普通のことになってしまっていますが、当時、日本育英会の奨学金に、利子をつけて返済する案が議論されていて、それに反対することと、国立大学の入学金と授業料は、年度をずらして値上げされていたので、それをやめるように、政府に訴えるのが、目的でした。どちらも、阻止できませんでしたが、学生が声をあげて意思表示することが大切であると考えています。

10 Q. 0 死後の魂はそれぞれが独立した存在なののでしょうか？ それとも梵我一如のように神々と一体化するのでしょうか？

A. 0 ギリシア人の場合も、ユダヤ-キリスト教の場合も、個人の魂は独立しています。その点が、インドとは違うかもしれません。

以下、第7回 (2016.05.26.) へのコメント

15 Q. 1 logos には、理論、理解、真理など様々な意味合いがあると聞いたことがあるのですが、そのような意味で合っているのでしょうか？

A. 1 聞いただけで済ませずに、図書館に行って、自分で、ギリシア語辞典を引いてみましょう。直接的に、「真理」という意味はありません (間接的には「虚偽」よりも「真理」を志向しているでしょうけれども)。logos は、ひとことで言えば、「理 (ことわり)」です。

20 Q. 2 自分が思考できるのは、自分の言語化でき得る限りである、とどこかで耳にしたことがあります。

しかし、プラトンはその真逆を主張しています。言語以前、非言語的思考というものは、感覚や感情とはまた別のものなののでしょうか。

25 A. 2 プラトンの場合は、思考の内容 (と言っていいのかどうか) を、可能な限り、言語化して表現する努力をした上で、それでも、ことばにならないものがある、ということを行っているように思います。これははじめから、言語化する努力を放棄しているわけではないので、説得力があると思います。その上で、どうしても、ことばにならないものというのは、プラトンが想定している哲学の内容としては、感覚や感情とは違うと思います。

30 Q. 3 文章家が「文章より大事なものがある」と言うのと確かに説得力があると思います。ただ、よく出来ている人が、そういうことを言うと、現代では批判されることもあるようですが、当時でも批判されていることはあったのでしょうか。

A. 3 当時のことは、私にはわかりません。「よく出来ている人が、そういうことを言う」というのは、いやみ、と解されるということですか。

35 Q. 4 最近見た映画の中で、精神病患者が自分の思いをノートに書きつけることで、回復していく場面がありました。音声によって人に伝えた方が、魂を持った言葉は伝わると思いますが、文字として書かれた言葉も、自己対話としては魂を持った言葉として機能すると思いました。

A. 4 文字として書くのは、主に、他人に何かを伝えるためと、自分自身の覚え書き (自分のために書く)、という場合がありますが、どちらにせよ、書くこととは別に、プラトンも、アリストテレスも、一人で思考する、ということは、自己との対話である、という発想をもっています。

40 Q. 5 プラトンの偽の書物が現れたとのことなのですが、どうやって見分けていたのですか？ SNS で感じるような文字でのコミュニケーションの難しさが、プラトンが書いたとされる書物に述べられていたことをに驚き、その難しさは万国どの時代にも共通なんだと感じました。

A. 5 語法や文体、そして、哲学的な内容によって判断しますが、それも、これがプラトンの言い方であり、哲学的な内容である、という規準となるものがあつての話ですから、どうしても、

相対的な判断にとどまります。現代でも、多くは真作とみなされていますが、中には、いくつか、どうしても疑わしい、とされている対話篇があります。

5 Q.6 (第6回の) Q.9に関して、神の存在への感謝をこめ、研究している科学者はよく話として聞くことがあり、同時に彼らが神の存在に頼りきりという印象も持ったことがないなと思いました。

Q.6' 神を信じることで意志決定が困難になるという考え方は意外だったけど(ママ、けれども²)、何となく理解できました。

10 A.6 17世紀くらいまでは、キリスト教の創造神によって、この世界には、(自然の)法則が造られ、人間には隠されているから、それを発見する、という自然を研究する動機の部分に、神が登場することはありえたでしょうが、現在では、多くの場合、それはなく、一定の研究成果にたどり着いた後に、研究者の心のうちからわきあがる、感謝の気持ちの向かう先が、神(あるいは、超越的存在)であったりする、ということなのでしょう。

15 Q.7 幽霊の問題はとても難しいと思いました。みた人と、いると思っけていても見たことがない人と、みたけど信じていない人と、いろいろいると思うからです。しかし、幻とか幻覚と説明されうるとしても、人間の脳は自分の心の中では、思いもしないような全く突拍子もつかないような幻覚をつくり出せるもんかなあと思いました。

20 A.7 実際に、見た経験をもつ映像と、それらの部分的な組み合わせ以外のものを思い描けるかどうか、という問題ですね。思い描けるとした場合、それは、まったく見た経験のないものを、創り出したのか、それとも、経験していないけれども、生得的にもっていた情報なのか、という議論が、ありそうですね。

Q.8 古代ギリシアの戦争がルールを決めてから行われていたということに驚きました。ルールの穴をつくような行為はどう処理されていたのだろうかと思いました。

25 A.8 前半については、ギリシア人のポリスどうしの総力戦ではない、余裕のある戦争である、ということをお忘れしないで下さい。相手がペルシア人ならば、こうはいきませんから。後半については、伝承には、紹介した以上言われていないのでわかりませんが、「ルールの穴をつくような行為」がどういう行為であるか次第であるとは思いますが、こういう発想をする質問者は、ルールを守って戦うことを誇りとする当時のギリシア人の中では、生きてゆけないでしょうから、古代のギリシア人に生まれなくてよかったですね。

30 Q.9 古代ギリシア人は様々な競技で優れた魂を競うことを好んだ、ということでしたが、プラトンの「ソクラテスの弁明」(ママ、『ソクラテスの弁明』)の中では、「ポリスの人々はおもった魂のことを気遣って過ごすべきだ」といったようなことが主張されていました。ここで、批判されているのは、いわゆる名声だとか財産を増大させるような行為なのでしょうが、これらはいわゆる「競技」と切っても切れないものなのではないのでしょうか？

35 A.9 古代のギリシア人が、身体的な競技であれ、頭脳プレーによる競技(例えば、タレスがオリーブの豊作を予測して、オリーブの搾油機の使用権を合法的に買い占めて、財をなした)にせよ、それは、魂のアレー(卓越性)のうちの、ある部分が目に見える形で現れたものにすぎません。ソクラテスは、魂には、もっと大切な部分があるだろう、と目に見える部分に気をとられている人々に警鐘を鳴らしているのでしょうか。

40 Q.10 私もなか金縛りにあったことがあり、先生の言っていたのと似ていてドアが開いて人が入ってくるものでした。金縛りについて負の思いなどが要因とおっしゃっていたのですが、疲れていた、や、思い悩んで精神的に疲労していた、などの要因もありましたか。

A.10 「精神的に疲労」かどうかわかりませんが、私は着任早々、ある先生がずかずかと私の研究室にやってきて(初対面)、「あ〜だが、アカイさん？ 広大出身の古代哲学の研究者がいるん

² 「けど」「けれども」は、論文やレポートでは、「けれども」とするほうが無難です。谷崎潤一郎『文章読本』を参照のこと。

だから、ここは、あ〜たのような、どこの馬の骨かわからない人が来るようなところじゃない！」と言われてあつけにとられたことがありました。今から考えると、職場でのハラスメント発言だと思いますが、これほど、はっきり言う先生はめずらしいですが、他にも、同じ考えの先生たちがいることを感じ取っていたので、それが、金縛りのときに、私を6Fから、投げ落とそうとした力

5 だったのではないかと、思います。因に、先の発言をした先生は、ハラスメント相談員もされていたので、ハラスメント相談員自ら、ハラスメント発言をする、という画期的な大学、というのが、私の広島大学の第一印象です。(この先生は、もう定年で退職されました。また、この発言の直後に、この先生の上司にあたる先生のところへ行行って事情を話して、この先生を呼び出してもらい、発言内容を撤回するように求めましたが、「わたしはそんなことは言っていない！」と発言

10 したことを否認して(つまり、赤井が嘘を言っている、と主張しているのと同じこと)、今に至っています) こういうことは、大学にかぎらず、人が集まってつくる組織では、ありえることなのでしょうが、管理者サイドは、それを影の部分として、隠蔽しようとしませんが、被害を受けている側は、泣き寝入りしないで、声を上げていき、情報や事実を、構成員全員にオープンにするほうが、長い目でみるとよいのだらうと思います。

15 もっとも、金縛りにあう本人の問題ではなくて、場所に由来するのかもしれない、と思うこともあります。京都の北白川に12年くらい住んでいましたが、北側の部屋で寝ると、金縛りにあうのに、南側の部屋で寝ると平気、という現象はありましたので。

Q. 11 前回「外国語の勉強方法」について質問したのですが、先生の答えを聞いて、私が語学習得の効率性ばかりに気をとられていたことが分かりました。外国語の勉強は自分がやらねばならないことなので、かまえずにとりあえず勉強して、しっかり挫折したいと思います。

20

A. 11 それでよいと思います。どんどん、勉強して、いろいろな言葉を知りましょう。ちょっと、古いですが、図書館か、古本で探してみても、自分がやろうとしている外国語はどんなことばなのかをちょっと知るには参考になる本です。

渡辺照宏, 1962(1976), 『外国語の学び方』, 岩波新書

25 梅棹忠夫, 永井道雄編, 1970(1979), 『私の外国語』, 中公新書.

新名美次, 1994(1997), 『40カ国語習得法』, 講談社ブルーバックス

Q. 12 毎回コメントシートの返答の時間が面白くて楽しいです。ありがとうございます。先生を見かける時、いつも違うトートバッグを持っているように思うのですが、いくつ持っていますか。ふと、気になりました。

30 A. 12 ハワイのおみやげにいただいた、キティちゃん、自分で買った、ムーミン、もう使っていない、ミッフィ、それ以外は、無地のものがいくつかあります。

Q. & A. のことですが、質問に答えようと思って準備して行くと、当の質問を書いた学生が欠席して、答はむなしく、空中に消えて行く、ということもあります。しかし、その質問を書いた学生以外の出席者にとっては、こんなことに疑問をもつ人がいるんだ、ということがわかって、

35 それはそれで、意味のあることなのかもしれない、と思って、A. を書いています。